



# 令和 6 年度 総 合 問 題

## 問 題 冊 子

### 注 意 事 項

1. 監督者の指示があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 問題冊子は、16 ページに組んである。  
なお、落丁、乱丁及び印刷不鮮明なものがあれば、すぐに申し出ること。
3. 全ての解答用紙に必ず本学の受験番号、氏名を記入すること。各解答用紙に受験番号欄と氏名欄がそれぞれ1箇所ある。
4. 解答は、解答用紙の指定された解答欄に記入すること。異なる解答用紙・解答欄に記入されたものは採点されない。
5. 記入した解答用紙は、裏返して机の上に置くこと。
6. 解答用紙の※欄は記入しないこと。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

## T 総合問題 問題訂正

2 15 ページ 下から 6 行目  
及び 16 ページ 上から 2 行目

誤： . . . Undernorishment (PoU) . . . .

正： . . . Undernourishment (PoU) . . . .

- 1 次の文章および図を読み、あとの問1～問3に答えなさい。\*のある語句の注は本文の後に示されています。

国連の新推計(UNWPP 22)によれば、世界の主要地域別人口の中で、今後、もっとも大きく増加するのは、サブサハラを含むアフリカの人口である(図1／図2)。1950年のアフリカの人口は、2億3,000万人と、当時の世界人口25億人の中で10%にも満たなかった。これに対し、アフリカの旧宗主国であったヨーロッパの人口は5億5,000万人と倍以上もあり、また世界人口に占める割合も20%を超えており、第二次世界大戦後の世界におけるヨーロッパはアジアに次いで人口が多く稠密\*な地域であったことがわかる。これに対し北米やラテンアメリカ・カリブ諸国の人口は各々1億6,000万人ほどであり、オーストラリア・ニュージーランドを含むオセアニアの1,258万人とともに、広大な地域に比して、人口規模は小さく、もともと人口が希薄な地域であったことがわかる。

これに対し、アジアの人口は13億8,000万人、世界人口の55%と、その過半数を占めていた。その後もアジアの人口は増加し続け、2022年現在、47億2,000万人と、ほぼ80億人に達した世界人口の59%を占めるようになっている。かつてアジアに次ぐ人口規模を誇ったヨーロッパの人口は、その後7億4,000万人まで増加したものの、世界人口に対するシェアは9%に後退した。一方、サブサハラを含むアフリカの人口は14億3,000万人、人口シェアは18%とすでにヨーロッパを凌駕している。北米は3億8,000万人、ラテンアメリカ・カリブ諸国の人口は6億6,000万人、オセアニアは4,500万人と、人口は大きく増加しているが、人口シェアは余り変化していない。

さらに今世紀末の状況を見ると、アジアの人口は、2055年の53億人をピークに人口減少に入り、2100年には46億7,000万人と45年間で6億3,000万人減少する。なお世界人口に対するシェアのピークは2001年の60.8%で以降は低下していく。2100年には45.2%となり、依然としてシェアは一位でアフリカよりも高いが、アジアの世紀は終わりつつあるともいえる。これに対しアフリカの人口は世紀末まで増加を続け、2100年には39億2,000万人、人口シェアは38%となり、世界の4割近い人々がアフリカ大陸に居住するようになる。この

推計にはないが、22世紀に入れば、アフリカはアジアの人口を超える。つまり、22世紀はアフリカの世紀となるとみてよいだろう。これに対し、ヨーロッパの人口は、すでに2020年の7億4,000万人あまりをピークに人口減少に入っており、2100年には5億9,000万人と、1億6,000万人減少し、世界シェアも6%となる。北米は、4億5,000万人まで増加、シェアは4.3%、ラテンアメリカ・カリブ諸国の人口は2056年の7億5千万人をピークに世紀末には6億5,000万人、世界シェア6%、オセアニアは6,900万人まで増加、世界シェアは0.7%と余り変化しない。(中略)

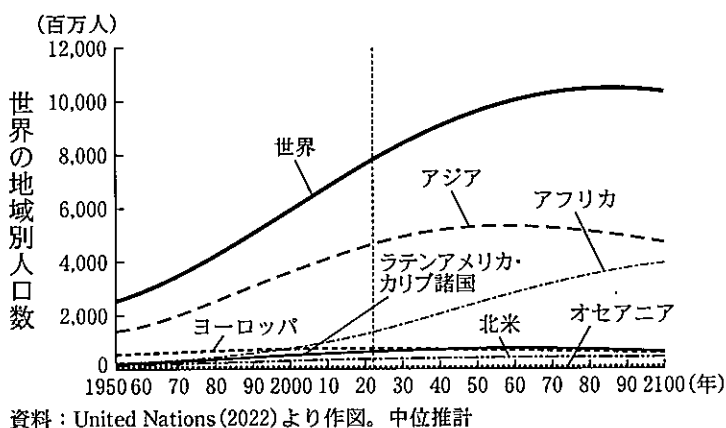


図1 世界人口の変化(地域別)

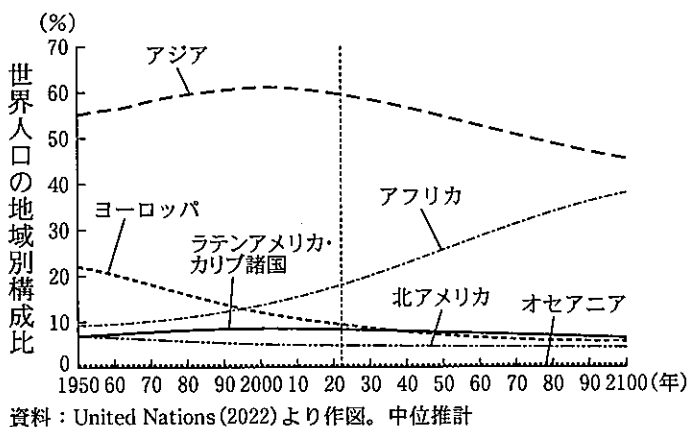


図2 世界人口の構成比の変化(地域別)

つまり、20世紀後半から22世紀にかけて、世界人口はアジアの世紀からアフリカの世紀へと入れ替わっていく。しかし、この変化を現時点の開発度や所得水準でみると、もっとも人口増加が進むのは後発開発途上の国々(Least Developed Countries, LDC)であり、中進国(semi-advanced countries)や先進国(developed countries)の人口は急速に減少に向かっていく。つまり、現状の開発度や所得水準のまま人口構成のみが変化してゆくとすれば、世界全体が貧困化していくことになる。<sup>①</sup>あるいは現在の世界的な経済格差の拡大には人口変動による構成比の変化も影響していると考えてよい。しかし、そのような経済格差の拡大や世界の大部分の地域における貧困化に、世界経済や世界人口の持続可能性がどこまで耐えられるか疑問である。とりわけ、現在進行中の地球温暖化による自然災害の大規模化や、新型コロナウイルスのような疫病の大流行、ロシアのウクライナ侵攻のような国際紛争が引き金となり、深刻な食料・資源・エネルギー危機が発生すれば、この国連の新推計のシナリオが大きく狂い、世界人口が回復不能なダメージを受ける可能性は排除できない。逆にいえば、世界人口がアジアの世紀からアフリカの世紀へと入れ替わっていくとすれば、その変化を支えるだけの経済成長や経済格差の縮小が実現されねばならない。

また、この国連の新推計では、国際人口移動が、コロナ危機以前と変わりなく続くことが前提とされている。秩序ある国際人口移動が計画的に推進されれば、それはサブサハラ・アフリカなどの人口増加を抑え、経済発展に資するものとなり、他方、中進国や先進国の少子高齢・人口減少を緩和し、縮減していく有効需要を下支えするものとなる。しかし、すでにEUやアメリカで起き始めている移民排斥運動が激しさを増し、トランプ前大統領がメキシコとの国境に巨大な壁を建設しようとしたように、自国優先主義的政策が横行するようになれば、世界的な経済格差の拡大と貧困化がさらに進むことになるだろう。その場合、やがて抑えきれない程に巨大化した難民の群れがEUやアメリカに押し寄せ、先進国の社会・経済・文化は崩壊するだろう。たとえ押し寄せる難民を軍事力により暴力的に止めることができたとしても、ポスト人口転換期に入った文明社会にとって、それは自らの社会・経済・文化が寄って立つ基本原理(自由・平等・博愛、基本的人権の保障)を否定することになるだろう。(中略)

ローマ・クラブ\*報告『成長の限界』で使われたワールドモデルの開発で人口セクターを担当したドネラ・メドウズが1990年に「村の現状報告」と題したエッセイを発表、これが「世界がもし100人の村だったら」として、2001年前後からネット上に広まっている。国連の新推計が示す世界人口の構成比の変化を、日本も加えて、同じように記述すると次のようになる。

世界がもし100人の村だったら、1950年の村の住民は、アフリカ人が9人、アジア人が55人、ラテンアメリカ人が7人、ヨーロッパ人が22人、北米人が6人、オセアニア人が1人。アジア人55人のうち、日本人は3人。1950年の日本人口は8,400万人ほどで現在よりは少ないが世界人口の3.4%を占めていた。

これに対し、2022年現在の村の様子は、アフリカ人が18人、アジア人が59人、ラテンアメリカ人が8人、ヨーロッパ人が9人、北米人が5人、オセアニア人が1人。アジア人59人のうち、日本人は2人。2022年の日本人口は1億2,300万人ほどと多くなっているが、世界人口の1.6%と人口シェアは半減している。

さらに2100年になると、村の様子は変わり、アフリカ人が38人、アジア人が45人、ラテンアメリカ人が6人、ヨーロッパ人が6人、北米人が4人、オセアニア人が1人。アジア人45人のうち、日本人は1人。しかし、2100年の日本の人口は7,400万人ほどで、世界人口に占める割合は0.7%しかない。したがって、1人未満を0人と考えるのなら、2061年の0.9%以降、日本人の村人は誰もいなくなるともいえる。もっとも1人(1%)未満を0人とするのであれば、オセアニア人の村人は1950年の0.5%から2100年の0.7%まで、ずっといなかったことになる。

また、どの地域でも同じことだが、ここでいう日本人は、その年次に日本に住んでいる人という意味であり、民族的出自ではない。人口学では、人口は一定時間内に一定の空間にいる人の数なので、単に日本の総人口といっても、日本国籍者もいれば、外国籍者も無国籍者もいる。また日本国籍者であっても、外国籍から帰化した人や両親のいずれか一方が外国籍である人もいる。日本は1984年に国籍法を改正するまでは父系血統主義であったため、父が外国籍の場合、子どもは外国籍となった。これに対しフランスやアメリカなどの出生地主義の国では自

国領土で生まれた子どもは自国籍を自動的に付与される。つまり、同じ日本国籍者であっても本人や親の出自が日本であるとは限らないし、アメリカやフランス国籍については、さらに多様な人々が含まれる。実際、これまでのペースで国際人口移動が続けば、世界の各地域の人々は相互に入り交じり、世界人口の分布がどうなるかは別に、世界全体が実態として多民族化することは避けられない。たとえば、すでにイギリスのロンドンに住民の半数以上がインド系であり、新しい保守党党首もインド系になった。ドイツでは、すでに全人口の25%以上が移民系の出自で占められている。日本でもすでにスポーツ分野などで移民系の日本人の活躍が注目を集め、日本の伝統文化である大相撲などはかなり前から多民族化している。世界中で多様な系統の人々が入り混じり、共に学び、働き、家族を形成し生活することが日常化するだろう。

さらに100人の村の1人、平均的なホモ・サピエンスを考えれば、村人の人数はその遺伝子(DNA)構成を示すという解釈も成り立つ。たとえば2100年の平均的なホモ・サピエンスの遺伝子の特徴について、その構成比をみれば、アジア系とアフリカ系がほぼ40%、その他の系統が20%を占め、アジア系の1%弱が日本人の系統の遺伝子ということになる。この種の、ホモ・サピエンスの遺伝子的特徴の遷移は、これまでも常に起きてきたと思われ、驚くべき未来でも、避けるべき未来でもなく、単に歴史的必然と考えるしかない。むしろアフリカ系の比率が増すこと自体は、混じり合った結果、本来の姿に戻っていくという点では、ごく自然なことのように思える。(中略)

ホモ・サピエンスは、元々、サバンナのようなところを移動しながら暮らしていたといわれていて、一箇所に定住するようになったのは農耕牧畜が始まったことによると思われる。しかも、人口学的には、その農耕牧畜にあっても世代を越えて長期に同じ土地で暮らしていたとは思えない。というのも同じ土地に留まり再生産し続けられれば、同族同士で世代交代を繰り返すことになり、他の地域に拡散することはできない。また農耕であれ牧畜であれ、同じ土地を利用し続けられれば地力が衰え収量が低減することが経験的に知られている。さらに同じ土地で世代交代を繰り返せば非常に低い人口増加率であっても、人口が増加する限り1人あたりの利用可能な耕作地は時間とともに狭くなり、マルサス\*が警告したように土

地の力が人口を支えられなくなる。このため農耕であれ牧畜であれ、他の地域との交流(婚姻と通商)が必要となるが、それは必然的に移動をともなうものとなる。その結果、居住地や集落、村や街、あるいは国の人口は、人口移動とそれにともなう自然動態の変化で増減するようになり、その結果として、人口の波動が生まれ、無数の波動が重なりあって、世界全体に広がり、今日のような世界人口の変動となってきたといえる。産業社会が始まるとともに人口移動はさらにダイナミックになり、生涯同じ土地で暮らす人の方が少なくなっていく。確かに近年の大都市圏では3世代以上にわたり同じ土地で暮らす人が増えてきたが、それは大都市圏の人口支持力が巨大化したからであり、さらにグローバル化が進めば一生の間に複数の大都市圏(あるいは国々)の間を移動する人も増えるだろう。

このように先史時代から今日まで、さらに未来においても、ホモ・サピエンスは移動し続けると思われる。また移動が恒常化すれば、特定の地域の人口の概念も現在とは異なるようになると考えられる。すなわち現在は常住人口と移動人口を分けて考えているが、様々な大都市圏を移動して暮らすことが恒常化すれば、両者を明確に区別することは難しくなる。夜間人口と昼間人口のように時間で区切るしかなくなるだろう。

かつて封建制の社会では領地の内外への移動は領主の許可が必要とされ、領民が他の土地に住むことは基本的に許されなかった。しかし、今日の国民国家では、国内移動を許可制にしているケースは少なく、移動や転居の自由は当たり前のこととして認められている。EUでは、シェンゲン協定以降、域内の移動や転居の自由が大幅に緩和されたが、世界の他の地域では、国際人口移動は、国境や空港、港湾においてパスポートやビザの呈示が必要とされている。移動の未来においては、この種の制限はなくなると思うが、そのかわり、世界中の人間の位置はGPSでリアルタイムで把握されるようになり、必要に応じ、その移動は制御されるようになるだろう。個人の自由は最大限保障されるようになるが、そのリスクは社会全体としてコントロールしてゆく方向に進化するしかないだろう。<sup>③</sup>



(注)

稠密(ちょうみつ)：ひとところに集まっていること。またはそのさま。

ローマ・クラブ：スイスに本部を置く民間のシンクタンク。

マルサス：トーマス・ロバート・マルサス。イギリスの経済学者。

出典 原俊彦『サピエンス減少 ―縮減する未来の課題を探る』岩波書店  
2023年(一部改変)

- 問 1 下線部①の「現状の開発度や所得水準のまま人口構成のみが変化してゆくとすれば、世界全体が貧困化していくことになる。」とはどういうことか。図 1 および図 2 から読み取れる傾向を参考にしつつ、本文に即して 100 字以内で説明しなさい。
- 問 2 下線部②で「これまでのペースで国際人口移動が続けば、世界の各地域の人々は相互に入り交じり、世界人口の分布がどうなるかとは別に、世界全体が実態として多民族化することは避けられない。」とあるが、このような「世界全体の多民族化」を促す「国際人口移動」とは、どのような要因により、どのような形で進んでいると考えられるか。本文を踏まえて 200 字以内で具体的に説明しなさい。
- 問 3 下線部③の「個人の自由は最大限保障されるようになるが、そのリスクは社会全体としてコントロールしてゆく方向に進化するしかないだろう。」について、世界中で個人が自由に移動できるようになることで、社会全体でのコントロールが必要になる「リスク」にはどのようなものが考えられるか。また、それらの「リスク」を低減するためにはどのような対策が求められるか。具体例を挙げながら自身の考えを 600 字以内で述べなさい。

2 次の文章および図表を読み、あとの問1～問3に答えなさい。\*のある語句の注は本文の後に示されています。

World hunger rose further in 2021, following a sharp upturn in 2020 in the midst of the COVID-19 pandemic. The persistence of the pandemic and its enduring consequences, which exacerbated\* existing inequalities, have contributed to further ( a ) in 2021 towards achievement of the Zero Hunger target by 2030\*. After remaining relatively unchanged since 2015, the PoU [Prevalence of Undernourishment] jumped from 8.0 in 2019 to around 9.3 percent in 2020 and continued to rise in 2021—though at a slower pace—to around 9.8 percent (Figure 1). It is estimated that between 702 and 828 million people in the world (( b ) 8.9 and 10.5 percent of the world population, respectively) faced hunger in 2021. Considering the middle points of the projected ranges (722 and 768 million), hunger affected 46 million more people in 2021 compared to 2020 and a total of 150 million more people since 2019, prior to the COVID-19 pandemic. Considering the upper bound of the range, the number could be as high as almost 210 million more people in two years.

The numbers show persistent regional ( c ), with Africa bearing the heaviest burden. One in five people in Africa (20.2 percent of the population) was facing hunger in 2021, compared to 9.1 percent in Asia, 8.6 percent in Latin America and the Caribbean, 5.8 percent in Oceania, and less than 2.5 percent in Northern America and Europe. Africa is also the region where the proportion of the population affected by hunger has increased the most. Since the launch of the Sustainable Development Agenda in 2015, the PoU for Africa has risen 4.4 percentage points, compared to 2.8 and 1.1 percentage points in Latin America and the Caribbean and Asia, respectively (Table 1).

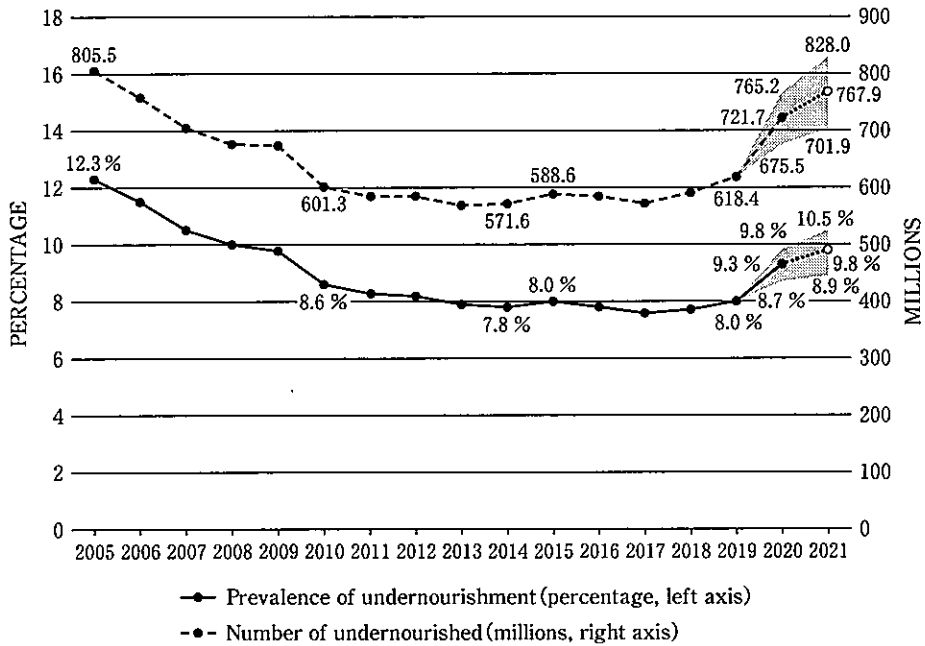
Looking more closely at the past two years, in Africa, a jump of more than 2 percentage points occurred from 2019 to 2020, under the shadow of the

COVID-19 pandemic, followed by a 0.6 percentage point increase from 2020 to 2021. Similar trends were seen in Latin America and the Caribbean and in Asia, which experienced increases of more than 1 percentage point from 2019 to 2020 followed by a further 0.5 percentage-point increase in 2021 (Table 1).

While the regional prevalence\* estimates reveal the ( d ) of the burden of hunger in each region, translating them into numbers of people gives a sense of where most of the people facing hunger in the world live (Table 2). Of the total number of undernourished people in 2021 (768 million), more than half (425 million) live in Asia and more than one-third (278 million) in Africa, while Latin America and the Caribbean accounts for close to 8 percent (57 million).

In Africa, 35 million more people were affected by hunger in 2020 compared with 2019, prior to the outbreak of the COVID-19 pandemic, with an additional 15 million in 2021, for a total of 50 million more people in two years. Similarly, 9 million more people were hungry in Latin America and the Caribbean in 2020 than in 2019, and an additional 4 million were ( e ) hunger between 2020 and 2021. In Asia, the increases were of 58 million in 2020 and 26 million in 2021.

FIGURE 1 BETWEEN 702 AND 828 MILLION PEOPLE IN THE WORLD FACED HUNGER IN 2021. CONSIDERING THE MIDDLE OF THE PROJECTED RANGE (768 MILLION), HUNGER AFFECTED 46 MILLION MORE PEOPLE IN 2021 COMPARED TO 2020, AND A TOTAL OF 150 MILLION MORE PEOPLE SINCE 2019, BEFORE THE COVID-19 PANDEMIC



NOTES : \*Projected values for 2021 are illustrated by dotted lines. Shaded areas show lower and upper bounds of the estimated range. SOURCE: FAO.

TABLE 1 PREVALENCE OF UNDERNOURISHMENT (PoU), 2005–2021

	Prevalence of undernourishment (percent)								
	2005	2010	2015	2016	2017	2018	2019	2020*	2021*
WORLD	12.3	8.6	8.0	7.8	7.6	7.7	8.0	9.3	9.8
AFRICA	20.7	16.5	15.8	16.3	16.4	17.0	17.4	19.6	20.2
Northern Africa	8.4	6.4	5.2	5.4	5.6	5.5	5.4	5.9	6.9
Sub-Saharan Africa	23.9	18.9	18.3	18.9	18.8	19.6	20.1	22.7	23.2
Eastern Africa	33.8	26.5	24.4	25.2	25.4	26.6	27.5	30.2	29.8
Middle Africa	34.9	26.0	26.3	27.4	26.6	27.3	28.1	30.4	32.8
Southern Africa	4.9	5.8	7.4	7.4	7.5	7.4	7.9	9.1	9.2
Western Africa	12.2	9.9	10.1	10.1	10.0	10.6	10.4	13.2	13.9
ASIA	13.9	9.1	8.0	7.5	7.1	7.1	7.4	8.6	9.1
Central Asia	14.0	6.0	3.8	3.5	3.2	2.9	2.6	3.1	3.1
Eastern Asia	6.8	<2.5	<2.5	<2.5	<2.5	<2.5	<2.5	<2.5	<2.5
South-eastern Asia	17.2	10.9	7.8	6.7	6.0	5.9	5.6	5.8	6.3
Southern Asia	20.5	15.3	14.1	13.1	12.4	12.3	13.2	15.9	16.9
Western Asia	7.8	5.9	9.6	10.4	10.2	10.3	10.0	10.1	10.0
<i>Western Asia and Northern Africa</i>	8.1	6.1	7.6	8.1	8.1	8.1	7.9	8.2	8.6
LATIN AMERICA AND THE CARIBBEAN	9.3	6.6	5.8	6.7	6.4	6.6	6.7	8.0	8.6
Caribbean	18.7	15.2	14.2	14.5	14.4	15.2	15.2	16.5	16.4
Latin America	8.6	6.0	5.1	6.2	5.8	6.0	6.1	7.4	8.0
Central America	8.0	7.3	7.5	8.1	7.9	7.9	7.6	8.0	8.4
South America	8.8	5.5	4.2	5.4	5.0	5.2	5.4	7.1	7.9
OCEANIA	6.8	6.2	5.7	5.8	5.8	5.7	5.6	5.4	5.8
NORTHERN AMERICA AND EUROPE	<2.5	<2.5	<2.5	<2.5	<2.5	<2.5	<2.5	<2.5	<2.5

NOTES : \*Projected values based on the middle of the projected range.

SOURCE : FAO



TABLE 2 NUMBER OF UNDERNOURISHED PEOPLE (NoU), 2005–2021

	Number of undernourished people (millions)									
	2005	2010	2015	2016	2017	2018	2019	2020*	2021*	
<b>WORLD</b>	805.5	601.3	588.6	585.1	573.3	590.6	618.4	721.7	767.9	
<b>AFRICA</b>	189.9	171.0	187.4	198.0	203.5	216.8	227.5	262.8	278.0	
Northern Africa	15.6	13.0	11.6	12.2	13.1	13.1	13.1	14.6	17.4	
Sub-Saharan Africa	174.3	158.0	175.8	185.8	190.4	203.7	214.4	248.2	260.6	
Eastern Africa	99.8	89.9	95.2	100.9	104.6	112.3	119.3	134.4	136.4	
Middle Africa	39.1	34.2	40.6	43.6	43.6	46.2	48.9	54.7	60.7	
Southern Africa	2.7	3.4	4.7	4.8	4.8	4.9	5.3	6.2	6.3	
Western Africa	32.6	30.5	35.4	36.5	37.3	40.3	40.8	53.0	57.3	
<b>ASIA</b>	552.5	381.5	356.4	336.2	320.8	323.1	339.9	398.2	424.5	
Central Asia	8.2	3.7	2.6	2.5	2.3	2.1	1.9	2.3	2.3	
Eastern Asia	106.0	n.r.	n.r.	n.r.	n.r.	n.r.	n.r.	n.r.	n.r.	
South-eastern Asia	96.6	65.3	49.4	43.3	39.1	38.8	36.9	38.6	42.8	
Southern Asia	325.7	262.3	258.0	242.1	232.8	233.3	254.1	307.6	331.6	
Western Asia	16.0	13.7	24.8	27.4	27.3	27.9	27.5	28.3	28.4	
<i>Western Asia and Northern Africa</i>	31.7	26.6	36.4	39.6	40.4	41.0	40.6	42.9	45.8	
<b>LATIN AMERICA AND THE CARIBBEAN</b>	51.7	39.1	35.9	42.5	40.7	42.5	43.3	52.3	56.5	
Caribbean	7.4	6.3	6.1	6.2	6.2	6.6	6.6	7.2	7.2	
Latin America	44.3	32.9	29.9	36.3	34.6	36.0	36.7	45.1	49.4	
Central America	11.7	11.4	12.7	13.9	13.7	13.9	13.6	14.4	15.2	
South America	32.7	21.4	17.2	22.4	20.9	22.1	23.2	30.7	34.2	
<b>OCEANIA</b>	2.3	2.3	2.3	2.3	2.4	2.4	2.3	2.3	2.5	
<b>NORTHERN AMERICA AND EUROPE</b>	n.r.	n.r.	n.r.	n.r.	n.r.	n.r.	n.r.	n.r.	n.r.	

NOTES : \*Projected values based on the middle of the projected range.

n.r. = not reported, as the prevalence rate is less than 2.5 percent.

SOURCE : FAO

(注)

exacerbated : 悪化させた

Zero Hunger Target by 2030 : 2015年に国連が定めた2030年までに達成すべき17の目標(SDGs)の1つ「飢餓をゼロに」

prevalence : 普及, 流行

出典 : FAO, IFAD, UNICEF, WFP and WHO. 2022. The State of Food Security and Nutrition in the World 2022. Repurposing food and agricultural policies to make healthy diets more affordable. Rome, FAO.

(一部改変)

(CC BY-NC-SA 3.0 IGO; <https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/3.0/igo>)

問 1 空所( a )から( e )に入れるのもっとも適切な語句を, それぞれ

(ア)~(エ)の選択肢の中から1つ選び, 記号で答えなさい。

( a )

(ア) pushbacks

(イ) setbacks

(ウ) comebacks

(エ) flashbacks

( b )

(ア) corresponding to

(イ) responding to

(ウ) subsequent to

(エ) in addition to

( c )

(ア) similarities

(イ) adversities

(ウ) disparities

(エ) peculiarities

( d )

(ア) fortitude

(イ) magnitude

(ウ) attitude

(エ) multitude

( e )

(ア) pulled out of

(イ) pushed below

(ウ) thrust into

(エ) called unto



問 2 文中で示した図表のデータを参照し、以下の(i)~(v)の設問に対して、もっとも適切な解答を、(ア)~(オ)の選択肢の中から選び、記号で答えなさい。

(i) In which year was the total Number of Undernourished People (NoU) at its highest?

(ア) 2019

(イ) 2010

(ウ) 2008

(エ) 2005

(オ) 2007

(ii) In which year did the Prevalence of Undernourishment (PoU) witness its sharpest decline compared to the year before?

(ア) 2009

(イ) 2010

(ウ) 2017

(エ) 2019

(オ) 2020

(iii) Which TWO regions of Africa had the highest rate of Prevalence of Undernourishment (PoU) back in 2005?

(ア) Northern Africa

(イ) Western Africa

(ウ) Middle Africa

(エ) Southern Africa

(オ) Eastern Africa

(iv) Which TWO regions of Asia had the highest rate of Prevalence of Undernourishment (PoU) 2019?

- (ア) Southern Asia
- (イ) Central Asia
- (ウ) Western Asia
- (エ) South-eastern Asia
- (オ) Eastern Asia

(v) Which TWO regions of Africa had the least total Number of Undernourished People (NoU) in 2019?

- (ア) Northern Africa
- (イ) Western Africa
- (ウ) Middle Africa
- (エ) Southern Africa
- (オ) Eastern Africa

問 3 2015年に国連が定めた持続可能な開発目標(SDGs)にある17の目標のうちの1つ「飢餓をゼロに」の達成に、新型コロナウイルス感染症パンデミックはどのような影響を与えたか。本文および図表を参考に500字以内で説明しなさい。